

# 熊本県

## 研究協力校（課程又は障害種）

- ・熊本県立熊本支援学校（知的）
- ・熊本県立荒尾支援学校（知的）
- ・熊本県立菊池支援学校（知的）

## 研究の成果

### 観点Ⅰ：

各モデル事業内、及び近隣自治体間における概念（用語）の共通理解・合意形成

#### Ⅰ. 研究目的と目標の設定

熊本県では平成29年度と同様に、教育課程編成を進める校内組織や手続き、年間計画等を整理することにより、知的障害のある児童生徒に各教科等を計画的に指導できるカリキュラム・マネジメントを進める。さらに、教科別の指導と各教科等を合わせた指導を効果的に組み合わせる等で「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を実施する。

研究の目標については、①熊本県内の各特別支援学校の教育課程改善を進める校内組織や手続き、年間計画等の整理を通して、児童生徒の学習評価を指導計画及び教育課程の改善に結びつける構造化をはかり、カリキュラム・マネジメントを進める、②各教科等の内容を計画的に指導する指導計画の作成及び指導に当たり、必要に応じて学習指導要領を参照できるように、各教科の目標・内容の全体像を捉えられる資料を作成し、指導目標及び評価規準設定に活用する、③各教科等の教育の内容毎に授業時数を配当した教育課程に沿って、教科別の指導と各教科等を合わせた指導を適切に組み合わせる等しながら、題材や単元全体で「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善をはかり、事例研究を深める、以上の三点を研究目標とした。

観点 2 :

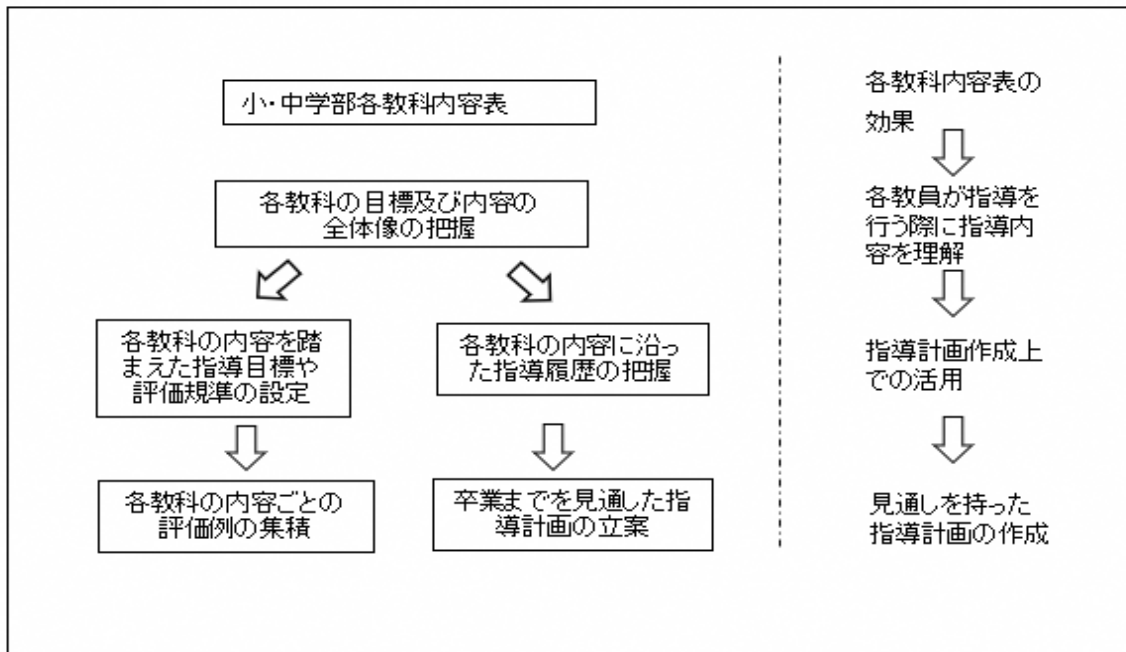
教育課程・個別の指導計画の実施状況とその評価

2. 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領各教科の全体像を把握するための資料（小・中学部各教科内容表）の作成と活用及び評価例の蓄積

平成 29 年度に目標②に係る取組として、各教科等の計画的な指導に当たり、必要に応じて学習指導要領を参照できるように、各教科の目標・内容の全体像を捉えられる資料として「小・中学部各教科内容表」の作成に取り組んだ。

資料 1 は各教科内容表の活用について示したものである。平成 30 年 9 月に完成した小・中学部各教科内容表を基に学習指導要領実態把握シート（アセスメント表）を各教科で作成し、その活用を開始した。この取組により児童生徒一人一人の学びの履歴を把握できるようになったとともに、学習指導要領の教育内容を押さえた目標設定、学習評価等に活用した。

また、熊本県立熊本支援学校では平成 30 年度に小・中学部各教科内容表を活用し、12 教科において評価規準や評価基準を設定した研究授業を全学部職員が 2 回行った。この取組を通して 200 の評価例を蓄積した。



資料 1 各教科内容表の活用

**観点 3：****個のニーズにあわせた指導法、学習環境・支援の工夫****3. 「これまで学んできた内容」をアセスメントに活用する手続きの整備**

児童生徒が、これまでに各教科でどのような内容を学んできたかを把握し、個々の児童生徒の実態がそれぞれの教科のどの段階に該当しているかを授業づくりに生かし、学習評価の充実をはかる視点で活用できた。このようなアセスメントは、様々な実態把握に活用できる可能性があり、効果的な指導形態の選択の根拠という点では、各教科等を合わせた指導による指導の効果をはかる視点になるという方向性を見いだした。

**観点 4：****障害のない幼児児童生徒・地域社会との交流及び共同学習の設定**

記載なし

**観点 5：****多面的な視点からの学習評価・授業評価・学校評価の実施****5. 3校合同中間報告会**

平成31年2月に熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校、研究協力校3校での大規模な合同研究「中間報告会」を行っている。中間報告会には県内外特別支援学校の教員等、350人を超える参加者があり、「新学習指導要領の方向性について」「熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校におけるカリキュラム・マネジメントシンポジウム推進のポイント、各教科内容表の活用、主体的・対話的で深い学びを充実させる取組について」等の内容について共通理解をはかることができた。評価については、研究校として指定した3校でそれぞれが自校で取り組む指導の成果を評価例として集積することができた。

## 観点 6：

### 新学習指導要領に対応した特色ある取組

#### 6. カリキュラム・マネジメントの推進

学習評価をカリキュラム・マネジメントにつなぐことについて、授業評価を年間指導計画への評価・修正に生かす道筋を示し、職員間で授業評価・改善について協議を行う校内研究会を設定するなど、共通理解及び職員一人一人のカリキュラム・マネジメントへの参画をはかることができた。教育課程編成に係るスケジュールや体制、ツール等が、明確化したことで、担当者の役割が明確になり、カリキュラム・マネジメントに参画する職員の意識が高まった。

3校合同中間報告会では、カリキュラム・マネジメント推進のポイントについて意見交換することができた。また、本研究の目的、方法、研究協力校3校の取組内容等をまとめたリーフレットを作成した(資料2)。リーフレットは中間報告会当日、参加者へ配布して説明を行い、研究の理解啓発を行うことができた。

文部科学省「特別支援教育に関する実践研究充実事業  
(次期学習指導要領に向けた実践研究)」

知的障害特別支援学校のカリキュラム・マネジメントに関する研究

～学習評価を指導計画につなぐ教育課程の構造化と  
各教科内容表の活用によるカリキュラム・マネジメントの充実～

3 special needs schools joint study

of curriculum management

### 3校合同研究

「中間報告会」



【研究指定校】

熊本県立熊本支援学校  
熊本県立菊池支援学校  
熊本県立荒尾支援学校

平成31年1月26日(土)

資料2 3校合同研究リーフレット